

No.59

1面	東京都美術館改修工事進む
2～5面	第95回記念二科巡回展
6面	第33回定時会員総会、理事会報告、理事・監事・評議員合同会議
7面	パリ賞・ローマ賞研修報告
8面	福島支部便り、都美術館リニューアルと春季展再開
9面	計報
10面	計報、随想、第96回二科巡回展日程
11面	計報
12面	計報、事務局だより、東日本大震災義援活動報告



春季

社団法人

発行人 織田廣喜 発行所 二科会事務所
電話 03 (3354) 6646



上野公園

今年の春季展は都美術館改修工事の為、開催出来ませんでした。来年四月に向けて着々と改修が進んでいる様です。

リニューアル成った新都美術館では、春季二科展が来年度の四月十七日から二十三日まで開催される予定です。

今年、三月十一日に東日本を中心とするマグニチュード九と言う未曾有の地震、十五mを遙かに超える津波、原子力発電所事故が起き日本全体が震えました。皆様はご無事の事と思いますが、会員の中には災害に遇われた方もおられた様です。

大変な中、国立新美術館の本展に向けて制作に励んでいる事と思います。

昨年は記録的猛暑、酷暑でした。節電の中、緑のカーテンを作ってくれたゴーヤの苗が飛ぶ様に売れている今年は、穏やかな夏が訪れる事を期待しています。

東京都美術館 改修工事進む



上野公園の桜

第95回記念二科巡回展報告

新潟展

平成22年10月9日～17日
新潟支部長 藤田 由明



初日テープカット

第95回二科新潟巡回展は新潟日報社との共催で十月九日(土)から十七日(日)の会期で開催しました。支部では昭和六十一年に第70回二科展を開催して以来、五年毎に誘致しており、この度、企画、準備から彫刻の藤巻実行委員長を先頭に七十名の支部全員が協力分担して運営にあたり、各方面のご支援、関係者のご尽力により予定通り開催することができました。作品展示には陳列委員の試行錯誤する中での苦勞の末、常務理事の石附先生のご指導で

総展示数一九一点が県民会館の約千平米の会場全体に整然と配置され出品者にも好感を持たれるよう配慮された会場造りができました。開催式にはお忙しい中、松室先生、生方先生、大隈先生、彫刻の工藤先生、日高先生によって花を添えていただき、ご祝詞と励ましの言葉には支部員の今後の活動に大きな力と意欲を喚起させるものがありました。制作の自由を標榜してきた二科会の趣旨と規模の大きさを、お迎えした約七千人余の入場者に深く印象づけることができたと思います。

美術愛好者や、公募展離れの傾向がある若手地元作家達からも「すごい迫力、といろいろな描き方が勉強になり、各人各様の個性が發揮されていて羨ましい」との声が寄せられました。本展に倣い、ギャラリートークも試み、本展で製作していただいた大ポスターや、掲示物も余すところなく利用させていただき、ビデオコーナーも設置したことにより改めて多くの二科ファンにアピールすることができたと思います。今後広報

大阪展

平成22年11月2日～14日
関西支部長 尾崎 功



入場を待つ来場者



絵はがき売場

二〇一〇年十一月二日、文化の日をはさんで、第95回記念二科大阪展が開かれました。

巡回展、いろいろと準備をした上で、陳列がいつも気になります。限られた壁面の内に、展示の仕方によって随分と印象の違ったものになるから。会場である美術館の四室の内二室を絵画が使う。一室は具象系の作品を陳べ二室に抽象系の作品をとという形をとっているものの二科は多種多様な作風があり、全国巡回の大作を交え何とか陳列できたというのが実状です。

彫刻、デザインを陳列している三室、彫刻の方は現状では難しい事ですが空間をもう少し広く使え、小品であっても全国巡回の作品が多少増えたらと感じた。デザイン、そして四室の写真においては関西勢の活躍が目立つ多彩な作品が陳ぶ活気を感じました。

大阪展に限って、絵画、彫刻、写真、デザインと四部が一体となって展開してきたという歴史があります。又、会期中に行われるさまざまなミニコンサートも十五年程続いていて、来場者の心休まるひとときとなつて定着しています。



ミニコンサート

二科巡回展に併催される「こども二科展」も59回を数え、デザイン部の「ポストカードデザイン大賞展」と共に全国から作品が寄せられ同会場に展示。そうした大量の作品の中に永年二科展に尽力された赤羽先生の遺作があり、淋しい限りでありました。

二科会とサンケイ新聞社による「二科百周年展」が計画されている中、新しい価値の創造はもとより、意欲的な作家が関西から出てくることを望むばかりです。大阪展で共催いただいているサンケイ新聞社及び各部の会員、会友、出品者の皆様の協力により無事終了できました。感謝申し上げます。

金沢展

平成22年11月17日～24日
北陸支部長 山岸 光代

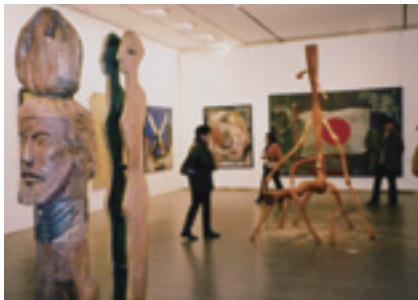
加賀百万石兼六園の十一月の樹々は黄金色に輝き、二科巡回展金沢展の会期中は北陸では珍しく秋晴れ続きでした。

会期も八日間という短かさでしたが、おかげさまで入場者も予想を上まわり支部員一同安堵の思いでした。今回は特に若い人達の入場する姿が目立ち、高校生の団体鑑賞もありました。

会場である金沢二十世紀美術館は、現代アートの作品発表の場としても知られています。また金沢は、土地柄的に伝統を重んじる保守的な土壌でもあります。



テープカット



会場風景

そして我が二科展は両者の狭間的な展覧会としてそれなりに存在をアピールして来ました。

展覧会の開催式で挨拶を致しました私は「二科会は今、全員力で大きく変わろうとしています。特にこの北陸支部は、若い人達に大いに期待をしています」と申しました。

今回の記念展でも絵画・彫刻の両部門での二科賞は、我が北陸支部の若手でしたので、そのことが入場者増にも繋がったようです。

支部員の皆さんに、私は常に厳しい言葉で対して来ました。そのことは、己れに甘えることなく新しさを求め立ち向う姿勢で、共に勇気ある作品作りを目指すという気持からです。

今回の記念展では特に数点の大作を展示することも

出来ましたので、会場の盛り上げにも大いに効果的でありました。

観賞者の皆さんからも見応えがあるとの声が聞かれました。

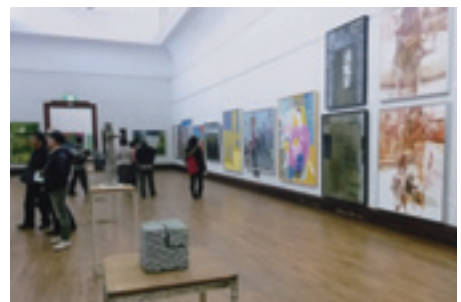
この95回記念展を契機として、今後は一層活力のある二科会に変革することを願うところです。

毎年十一月末から京都新聞社の主催で開催されるが、京都市美術館の二階を使い、独立美術館と室を分けるかたちでの展示となる。この企画は、ずっと以前に当時の東郷青児会長と京都新聞社長の間で決まったと聞いているが、とにかく会場が狭い。今年の展示作品は、絵画が京滋の出品作と理事、評議員と全国巡回の作品を加え百三十点、彫刻が京滋と巡回作品で二十一点、デザイン七十五点、写真八十一一点の合計三百七点と展示作品が限られている。拡げたいが美術館のスケジュールも過密で目処は立っていない。

開催にあたって会員、会

京都展

平成22年11月27日～12月5日
京都支部長 中原 史雄



会場風景

友、出品者とそれぞれに応じて前売券を負担し展覧会の運営に充てているが、今回チケット代未払い者二名が出た。永い展覧会開催のなかで初めてのケースで、共に開くという意識も変化している。

今回は開催期間が昨年より二日少ない八日間だった。と報告がネガティブになるが、入場者は六千二百八十四名。前年の百名増で、有料入場者も六十五名増と僅かな伸びを見せた。聞こえてくる評判もまずまずだった。

ところで、巡回展の展示の度に、爽やかな色彩の抽象を描いたY先生が偲ばれる。「展示は任せるから」と言いながら、配置が決まる頃に自作の前に来て「これでもいいけど、あれとこれ入れ替えたら」とやんわ

り。実は自作の左右三点ずつが気掛かりでしかたない。自分勝手だが、見せ方へのこだわりは描くことへの執着と繋がっていた。

いま、Y先生のような姿勢の作家が少ない。第96回展も間もなく、各々が真剣に表現を揚げないと……。



会場風景

名古屋展

平成22年12月14日～19日
中部支部長 伊藤 高義

○変わらない人気の二科展
例年十月開催の二科名古屋展は、愛知県美術館特別展行事で、本年は余儀無く会期を十二月に延期、しかも二週間の会期を一週間に短縮して開催。入場者が減るのではないかと心配されたが、開会されると心配を



ギャラリートーク会場

○展示作品の構成を一新
例年幹部や先輩の作品を中心に会場構成を各部とも踏襲し、マンネリ化しがちなものを、今回は展示委員により作品中心に一新した会場構成、入賞話題作、個性的な新人を優遇した作品陳列を行って、来場のファンから今年の二科展は変わったと好評であった。

○多彩な行事と宣伝
愛知県立芸大生の弦楽コンサート、受賞者の作品トーク、会員色紙のくじ引

き提供、懇親パーティなどの行事と名古屋の地下鉄とタイアップした宣伝などで会場雰囲気盛りあげた。

○ちよっぴり反省
・出品者が多くなり全作品が陳列できず、あの作家の作品が陳列されていないと言われて心苦しく答弁。

・展覧会運営費が増加、赤字補填のため、前売責任額として、会員前売券五十枚（四万円）、会友三十枚（二万円四千元）、一般出品者十五枚（売れただけ）。地方展のむつかしさ……。多彩な行事と個性的な作品が多く、入場者一万名で盛会の名古屋展となった。



県芸大生による弦楽コンサート

福岡展

平成23年2月15日～20日
福岡支部長 阿部 美代子



ギャラリートーク

殊の外、寒気が強い会期中の入場者数を案じましたが、盛會裡に開幕出来ました。前夜祭には西日本新聞社取締役相談役の多田昭重様にご臨席いただき、西日本新聞社の関係者も多く、出品者も多数参加して会場にあふれました。二科会理事の文田哲雄先生と写真部理事の高橋扶臣男先生ご臨席で西日本新聞社賞、絵画三名写真とデザイン二名が選出されて受賞式も行われました。会場の構成には馬場一郎会員と藤田新会員の盡力でスッキリとした見事な展示となりました。



ギャラリートーク

ビ局のスタッフ八名同行してテレビ撮影が始まり、一段と会場が活力であふれました。その中で文田哲雄理事によるギャラリートークが有り、有意義なご指導を仰ぎ大勢の入場者が熱心に聞き入り感銘を受けました。

総理大臣賞受賞の宮村長理事の「神様がお怒りおはせしか老いておはせしか」のユニークな作品に見入る入場者中央の先生方の作品も視線が集まり熱気が一杯でした。

最終日は馬場一郎評議員と田浦哲也評議員が交替しながら、ギャラリートーク。

福岡支部の今展の会員推挙、会友推挙、受賞者が作品の前で制作意図等を発表、入場者に囲まれて盛況でした。無事に二科福岡巡回展が終了する事が出来ました安堵と喜びを感じて居ります。

鹿児島展

平成23年3月10日～21日
鹿児島支部長 西 健吉

第95回記念二科巡回展は

三月十日から二十一日まで鹿児島県歴史資料センター黎明館で開催されました。

開催二日目の午後、東日本大震災が発生、連日の被災地の生々しい報道に心を痛めた方も多いと伺える中、来館される方々に、じっくりと鑑賞していただき、心を安らげる場であって欲しいと願わずにはいられませんでした。

当地の巡回展は五年前に南日本新聞社の事業から二科支部の運営に移行され、独自開催に戸惑いと不安を抱えながらも、支部同人の熱意と協力で毎年開催を重ね、今年は六十回目の記念展となりました。

今回は百三十号以上の大作や魅力的な作品が多く、本展に見劣りしない活気に満ちた会場になりました。

特別展示として故吉井淳二先生が戦前(三十六才時)友人に依頼されて制作した鹿屋市所蔵未発表の「霊峰富士」「聖峰高千穂」五十号二点を展示しました。又、期間中五回のギャラリ

トーク、展示作品に囲まれてのハープ、フルートのミニコンサート。会員、会友の額入りドロ잉作品を抽選でプレゼントしました。

来館者の感想として「今年の二科展は素晴らしかった。」「印象的で元気づけられた。」「吉井淳二先生の作品に接し、なつかしい想いに駆られた。」「ミニコンサートの演奏と会場の雰囲気グッとマッチしてとても心が豊かになった。」等々が寄せられました。

無事に巡回展を終了出来た喜びと共に、次回に向けての支部同人の熱意の高まりを感じられた記念巡回展でした。



ギャラリートーク

熊本展

平成23年3月23日～4月3日
熊本支部長 木戸 征郎

第95回記念二科展を熊本巡回展として、平成二十三年三月二十三日から四月三日まで熊本県立美術館分館で開催させて頂きました。

本県での開催は県民一同たいへん楽しみにしておりました。

偶然にも二科会の記念展と熊本県民テレビ開局三十周年と県民の長年の念願でありました九州新幹線鹿児島ルート全線開通が一緒に、桜の開花した熊本城



絵画・彫刻展示室

に隣接した美術館での開催は最高でした。

この度は主催共催の熊本県民テレビ様のご理解と絶大なるご協力を頂くと共に、芸術学部が設けられた崇城大学様のお力添えも頂き、広報面では、開催の半年前より、諸出版物やテレビ等で数えきれない程の広報をして頂き、有難く感謝をいたしております。

オープニングセレモニーには百六十名程の出席を頂きましたが自粛した形で行いました。

アナウンサーの司会進行で、二科会常務理事吉井英二先生のご挨拶を始め、崇城大学学長のご挨拶、最後に支部長からのお礼



初日会場入口



会場風景

広島展

平成23年4月12日～17日
広島支部長 高藤 博行

のことばの後、開場となりました。

今回も、全部門が一丸となり取り組んで来たことが結果的には盛会裏に終了できたことに結びついたものと思っております。

九千三百八十名の入場者があり、皆様方より、二科展はすばらしい！感動した。との一言を聞く度に疲れもふっ飛んでしまいました。

二科会の先生方をはじめ、ご支援ご協力を賜りました皆様と入場者の方々に厚くお礼申し上げます。

尚、会期中、チケット売場等に募金箱を設置した募金と、二科作品集・絵はがきの益金は、県民テレビを通して東日本大震災への義援金とさせて頂きました。

第95回二科広島展は、広島美術館にて開催されました。例年は新春の一月開催が四月となった上に、多大な被害をもたらした東日本大震災の後だけに、入場者等について不安の中での開催であったが、報道機関他多くの地元の方々の協力で例年に近い七千三百名余りという多数の観覧者がありました。これまで二科広島展は、四部門（絵画・彫刻・写真・デザイン）で連携を取りながら協力し、実施してきたことは支部の誇りでもありました。

四月十二日の開会式では四部門代表、中国新聞社代表によるテープカットと会員による会場案内で幕開けとなりました。

この度は、本部よりお忙しい中、香川猛理事が激励に駆けつけて下さり、広島支部としては大きな励みになりました。来館されてからの先生は疲れも見せられず、支部員の作品についてご批評とご指導、助言をして頂きました。

した。

夜の懇親会では、支部の出品者はもとより、多くの来賓の方々を迎え盛会裏に終えることが出来ました。

中でも香川理事の温かい貴重な激励の言葉を頂き一層会場は熱気に包まれました。

期間中は、二科の伝統精神をふまえた中央の先生方の力作に多くのファンが熱心に鑑賞しておりました。特に総理大臣賞の「神様がお怒りおはせしか、老いておはせしか」にもこの度の、東日本大震災と重ね合わせて興味をもたれた方も数多く見受けられ、中央に真っ赤な丸と断層を思わせる国旗、下部に二匹の大きな



初日テープカット



会場風景

広報だより

加覧 裕子

広報部では第96回二科展の開催に向けて観客動員に努めると共に公益的な活動に取り組んでいます。

●恒例となりましたチャリティー色紙展は本年度は売り上げ金をこの度の東日本大震災の義援金としてNHK厚生文化事業団を通じて被災地に送る事になりました。つきましては今年も会員皆様のご協力の程を宜しくお願い致します。

●第96回二科展ポスター、チラシの内容充実を図り従来のポスターに加えて新規ポスターの作成及びチラシの充実を図ります。

●ギャラリートークは各四部門が年々発展的な企画として定着され、今年も引き続き実施致します。

●二科展ツアーは昨年より学校、社会人サークル、カルチャー等の各団体を対象に、絵画部と彫刻部の展示ガイドを行っています。参加申し込み制ですので皆様のお知り合いに広く告知して頂き、多くの方にご参加頂けますように御協力を宜しくお願い致します。

●ミニコンサートは今年

震災の影響で金曜ナイトミュージアムは見送られますが日中に実施致します。出演者はチエルノブイリ原発事故の体験者でもありますウクライナ出身の歌姫（ナターシャ・グジー）さんに出演協力を頂きました。

●「作家のアトリエ風景」写真パネル展示
一般来場者が作品を身近に感じ興味を持って鑑賞される事を目的に、作家のアトリエ風景を写真パネルで紹介致します。

●第96回二科展の記録を去年に引き続きDVDに作成する予定です。

●前売り券の販売。
（メトロチケット売り場）
（チケットぴあ）に取り付けました。

●六本木街頭フラッグの掲載
●二科展公募パンフレットの内容及び配布先を検討。



コンサート終了後の広報担当者とナターシャ

第33回 定時会員総会

理事会報告

理事会（10・11・14）

平成二十三年五月二十九日午後一時より、第三十三回二科会定時会員総会が国立新美術館講堂に於て開催された。物故者へ黙祷を捧げた後、生方理事の進行のもと、出席者百十四名、委任状六十八名により総会成立が確認され、石附理事を議長に選出し、議事に入った。

第一号議案

平成二十二年事業報告の件
議長が平成二十二年の二科美術展覧会を主に配布資料に補足説明を加え報告。

承認

第二号議案

平成二十二年財務諸表並びに収支計算書（同決算に関する監査結果報告）
大隈理事より財務諸表並びに収支計算書を説明。事務局より補足説明。
次いで杉浦監事より、監査の結果、適法である事を報告。

承認

第三号議案

平成二十三年事業計画案承認の件

香川理事より事業計画を報告。展覧会実行委員会、四部門会議、百周年委員会、広報委員会、巡回展、アンケート各担当理事より、説明。承認

第四号議案

平成二十三年収支予算案

承認の件

大隈理事より説明、東日本大震災への義援金として百万円を計上した。懇親会費として六百万円を計上。

第五号議案

公益法人移行の件

石附理事より、平成二十二年十二月に移行申請して以降の経緯を説明。内閣府との協議、税務署の指導により、支部名称の使用、支部収支の連結決算を含め、定款変更、細則変更をし、総会での承認後、再度、公益法人移行申請を行う。

承認

事務局より補足説明。

各支部の繰越金は従前通り。各支部の収支は独立採算とし、各支部の経理をまとめ、本部で申告する。公益社団法人承認後は「公益社団法人二科会〇〇支部」の使用可能。

承認

第六号議案

東日本大震災に対する義援活動の件（報告）

川内理事より報告

宮城の二小中学校に画材寄付。他地域への援助も検討中。

第七号議案

春季展の件（報告）

平成二十四年より、四月十七日～二十三日迄、都美術館で開催。

協議事項

於・国立新美術館研修室

協議事項

◎不出品者について

不出品届提出者は会費は負担、掲載料・前売券は免除。二科ニュース、案内状、招待状は送付。

片岡洋一、佐藤成一、町田享、梅村孝之、小鹿尚久の休会申請

◎督促及び資格の喪失のタイムチャート案

承認

◎100回展への積立金の件

承認

◎巡回展への理事派遣の件

承認

◎次号より、一般出品者にも二科ニュースを送付する件

承認

報告事項

◎巡回作品への損害保険を検討する。

◎関西支部展での業者による作品紛失について報告。

◎会員・会友の動静報告

退会者

絵画 竹田 俊子（会友）

絵画 宮園 和子（会友）

彫刻 石田 瑞夫（会友）

彫刻 田村 智義（会友）

（出席者）

石附、生方、田中、吉井（英）、

小山、菅原、松室、大隈、

香川、川内、宮村、吉井（浩）、

吉野、日高、登坂各理事
理事会（11・4・16）
於・二科会事務局

協議事項

◎平成二十二年決算報告
会計監査終了、収支計算書、正味財産増減計算書を説明、報告

◎平成二十三年予算案

事務局長より説明

（条件付）承認

◎二十三年総会資料

承認

◎定款変更案

承認

◎定款細則変更案

承認

◎96回二科展について

吉野理事より実行委員会報告し、委員任期の延長（十二月末まで）を提案

承認

◎新ボスターの検討、ナイ

トミュージアムの自粛

承認

◎新人奨励賞の新設

承認

◎96回展参加費 デザイン

部二百万 写真部五百万

承認

◎「公募団体ベストセレク

ション美術2012」参加

承認

◎東日本大震災義援活動

委員会を作り行う。松室、

川内、登坂理事が担当。

◎情報開示について

定款、事業計画、予算、決

算等をホームページに掲載

する。承認

◎絵画部審査内規の成文化

理事・監事・評議員 合同会議

平成二十二年十一月十四日

於・国立新美術館研修室

●都美術館使用について

平成二十四年四月十七日、

二十三日より五年間。ロ

ビー階の第三棟、第四棟の

二室（面積は従前同様）

●公益法人移行認定申請

二十二年十一月に申請予定

を報告

●95回記念展収支報告

前年比で収入合計、支出合

次回理事会で確認、検討

承認

◎休会・不出品規則

休会、不出品届についての

告知及び不出品届ハガキ送

付の件

承認

◎報告事項

◎春期展にデザイン部参加。

◎会員、会友の動静

休会者

絵画 山崎さわ子（会員）

退会者

絵画 古川 益弘（会員）

絵画 中村セツ子（会員）

絵画 児玉 順子（会友）

絵画 松任谷千鶴（会友）

（出席者）

石附、生方、田中、小山、

菅原、松室、香川、川内、

宮村、吉井（浩）、吉野、

日高、登坂各理事

計共に減少。黒字幅は増加。
●実行委員会報告
国立美術館美術団体懇話会への参加を提案 賛同
展示 若年出品者の増加・育成を志向する。
広報 無駄を省き、経費削減に努めた。NHK厚生事業団へ50万円を寄付した。受付 二階発券場の整備、充実を予定。会場内ショップの配置を再検討。
審査（絵画） 審査内規の明文化の必要性。
データ 絵画部データと彫刻部データのリンクの充実。出品規約（絵画部） 額寸規定の表記法の再検討。
図録 96回展も合本とする。絵ハガキ 彫刻部の絵ハガキについては部内で検討。紙質向上を検討。
●審査の公平性を保ち、弊害をなくす為に、出身や支部を表示しない現行方法を履行。良好ゆえ継続。絵画部審査内規をまとめ、必要に応じて修正案を総会で検討、承認する案に賛同多数。
●休会者、不出品者
休会者 主に長期療養者を対象とし、休会申請後、理事会で承認された者。納入金（会費、前売券負担、掲載料）は免除。
不出品者 期限内に不出品届を提出した者。会費は徴収。前売券負担、掲載料は免除。

パリ賞研修報告

「タピエスと

アーティストスクワット」

根本 悟

タピエスが好きで、今回バルセロナにあるタピエス美術館を研修旅行のメインに据え、スペイン・フランス・モロッコを鉄道と船で回る計画を立てました。アントニ・タピエスは言わずと知れたスペイン現代芸術家。館内には初期のシュルレアリスティックな作品も。抽象表現主義、アンフォルメル。数々のポスターにみせるグラフィックセンスの良さももちろんだが、アルポーベエラストイルが、その荒々しさが、美しさを伴い迫ってくるのは人間本来の生命感。とても感動的。地下階では制作風景を流す映像も。パリでは予てから気になっていた場所にも足を運んでみました。『59リボリ』。一九九九年、三人のアーティストがパリのリボリ通り五十九番地にあった空ビルを不法占拠（スクワット）した事に始まるアトリエ。現在は税金の投入によりオーナーから



ヴァン・ゴッホ橋

買い上げられた合法的な場所であるそう。まるで美術学校の実習棟がパリの街の下真ん中に建っているよう。見学は自由、三十人程のアーティスト（中には日本の方も）が制作しながら、同時に発表してみせる。タブローに描く人もいれば、インスタレーションしている人も。何人かはそこで暮している事もあり、食事中

の人がいたり。それは学生時代を思い出すような懐かしい空気。自由が解放された場所でした。まだまだたくさん美術館やギャラリーを観て回り、一カ月に及ぶ研修旅行は慌ただしく過ぎて行きました。この旅で出会ったすべての絵画が、作品が、ヨーロッパの風が、今はただ静かに背中を押してくれています。

ローマ賞研修報告

「マンズーに魅せられて」

幡 青果

スペイン、イタリアを目指して出発したのは大震災から十日余りもたつてからでした。行く先々で繰りかえし流れるTVニュースは原発のあやうさ、津波のすさまじさを伝え、人間の浅はかさや、自然の力の強大さを思い知らされるようでした。そんなざらついた気持のままサグラダファミリア教会へ向いました。その外観は山岳の形から啓示を受け、完成されると鍵盤と同じ数の塔、八千人近くの聖歌隊が賛美し建築物全体が楽器化するという空間に身を置いていると、そっと自然と時間のなかに人間がつつましく間借りすることを許されるような気持ちになりました。

モ・マンズーがいます。マンズーの美術館はローマから、レーサーかと思えるような巧みな運転のバスに五十分ほど揺られた所にありました。インタホンで扉をあけてもらい内に入ると、ゆったりした空間に、まずは学生の頃こういうのもありなのかと驚いた野菜や果実の彫刻。そして何よりも枢機卿が。立体をグルリと廻ってみられるのがこんなにも楽しかったことはありませんでした。マンズーの人間を深くみつめる目、愛や死に対する想い、そして夜のひだがつくりだす美しさ。長い時間が経っていたらしく、係員が妖しんで二、三度見廻りに来たようでした。美術館を出る時、さきほどの係員が外の木立ちの方を指さし、「インジェ」と繰り返して言うので何の事だろう

と目を転じるとそこにインゲ夫人が立っていました。日本ではインゲと訳されていますが、イタリア語はジャパンはGで始まるのと同じでインジェと発音するのだと気付く、是非とも挨拶せねばと近づいて行きました。作品のように少しアゴが細く、たおやかな感じでやさしい握手と言葉をかけていただきました。すっかり舞いあがった帰り道でしたが、次はマンズーに捧げる花束をたずさえてまた来ようと思いに決めたことでした。



マンズー美術館にて

福島支部便り

大野 哲司

このたびの東北の大震災では二科の皆様にも、電話、葉書などお見舞いいただき誠にありがとうございます。お礼申し上げます。

福島市には、「文化センター」がありますが、地震のため少なくとも今年いっぱい使用不可能となりました。ここは二科の巡回展が、東郷先生がお亡くなりになった年に新聞社主催で開催された場所でもあります。

その時はまだ一般出品者でしたが、出品者代表として

してやるよう任命をうけました。その時来訪されたのが服部正一郎先生でした。

その折先生から「支部を作り、支部展をやったらどうか」と話をいただきました。そうした縁で福島支部が誕生しました。

服部先生からその後、「なんでもわからない事は、田中良先生に聞くように」とのお話があり、相談のつていただき、支部展の折にご指導をいただいております。先生のご支援がなかったら、福島支部は消えてしまつて、と思う時があります。私は今「川俣町」に住んでおります。

ここに旧副沢小学校の校舍を利用した美術館が誕生しました。

展示されてる中心の一人は、戦前二科に出品した方で、二科の創立者の一人、石井柏亭画伯に教えを受けた方です。

又、石井画伯は川俣の風景を描いております。今年の支部展は三十三回展を迎えます。

余震の続くなか、原発の問題もありますが故郷を愛する心と、情熱を一人でも多くの方々に、と思ひ、大変な時期ですが、ぜひ実現したいと思っております……。

都美術館リニューアルと

春季展再開

都美術館の二年間に渡りリニューアル工事が完成し、いよいよ春季展が再開されます。抽選により来年の四月十七日から二十四日の期間で、ロビー階の三棟と四棟を五年間確保することができました。本展を国立新美術館、春季展を都美術館の二か所で開催できることは、会にとって非常に恵まれた喜ばしい事といえます。

改修後は動線やアメニティ、展示室等の壁や床も改善され、上野の美術エリアファンにとつても魅力を増すことでしょう。

平成二十四年度春季二科展は四部門会議での協議で、写真部は残念ながら、本展の搬入時期と重なり、日程の都合で参加できませんが、絵画・彫刻・デザインの三部門で開催予定です。春季展を新たな試みと新人育成の場と位置付け、絵画部では会友や一般出品者の本展受賞者を中心とした選抜作家の大作奨励等の方向性を打ち出し、会員の出品号数も検討していく予定です。

都美術館の建物だけでなく、二科会の春季展もリ

ニューアルした姿を是非アピールして行きたいと思っております。

また都美術館は展示会場を公募団体に貸すだけでなく、使用団体と力を合わせて公募団体の魅力を引出し、活性化を目指すという理念を掲げています。

具体的には都美術館企画として主要な二十七の主要公募団体をセレクトし、各団体の顔となる出品作家による「公募団体ベストセレクション展」や都美術館の審査会により、優秀な新進作家を選抜フイーチャーする新鋭美術家展の開催を予定しています。

二科会も幅広い世代から絵画六名彫刻三名が出品でき、積極的に参加し、展覧会を成功させるべく協力していく予定です。

第95回二科展のシンポジウムで都美術館学芸員の佐々木氏、評論家の南郷氏をお招きし、吉野理事と共に美術館と公募団体の今後の在り方について、有意義なお話をさせていただきますが、このような形で実現したことで、今後の良い方向性が示されました。

二科会も公募団体の活性化をめざし、新たな取り組みを検討し実践していくことが求められていると言えます。

事務局長・山中宣明

二科会会員小品展

(二科サロン)

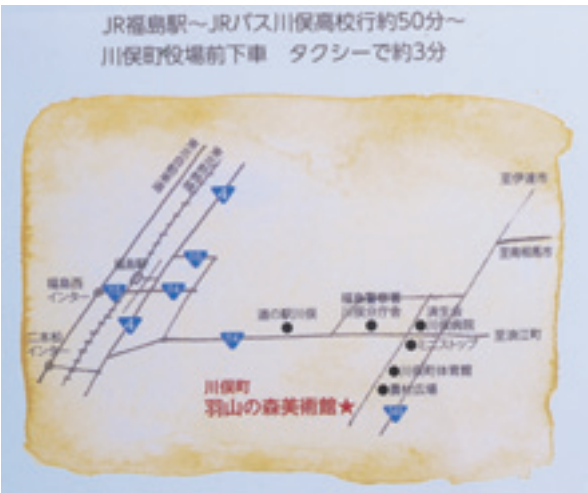
帝国ホテルインペリアルタワー一階ギャラリーに於いて、関東地域の会員の小品を、半年ごとに入れ替えて展示してきましたが、昨年、全国の会員の方々に出品して頂いています。

出品作家
森茂子 向井實 西健吉
永井忠雄 黒川彰夫 目野順也 田中睦子 有水基雄
中康史雄 濱田進 植地貞夫 三後勝弘 高藤博行
藤田新

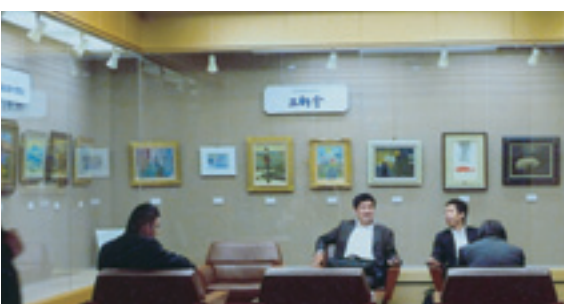
次回展示替えは七月中旬を予定。



会場風景



羽山の森美術館 案内図



二科サロン

報 計

名誉理事
安藤 幹衛氏
逝去す

第85回展出品作
まつり (MEXICO) F150
安藤 幹衛



名誉理事
安藤 幹衛
平成二十三年三月二十二日没
ご遺族 安藤 洋 (長男)
名古屋瑞穂区南山町
十九ー六 95歳

安藤 幹衛氏略歴

一九四〇年 二科展初入選
一九五四年 会員推挙
一九八四年 内閣総理大臣賞
二〇〇七年 二科会名誉理事
就任 受賞

芸術を志す人といえども独りぼっちで出来るものではない。彼を理解する周りの人達の協力によって目的を達成するものである。

(安藤幹衛画集「巻頭言の一部より」)

戦後混乱期の美術界をリードしてきた二科会にあって、養まじめで闘争心の強い青年画家安藤幹衛は、私たち入選者の注目と憧れの的であり、師匠の北川民次先生と同様に名古屋地区の誇りだった。

二科名古屋展の開催ともなると、先輩先生方と一緒にいたため真つ先にクロンボに扮してパレードに夢中になる等希望に輝いた時でもあった。

氏は、人間の闘争心や政治的な問題をテーマに描き、被害者意識の強い造形的な仕事を多く続けたが、一九三八

年にメキシコへ再度渡り、それをきっかけとして人間の本質に迫る感動に満ちた仕事に導かれたのではないかと思われる。

その折にメキシコから私宛にいただいた手紙の中から、私の大切にしている、氏の本音とも云える感動に満ちた言葉を記したいと思う。

「杉浦君、わざわざ空港まで送ってくれてありがとう。メキシコシティで一泊して、翌日オアハカに着いた竹田君と、岩山を描きに出掛けた。筆を走らせていると『しまった。強引にでも杉浦君を引っ張ってくるべきだった』と痛切に感じた。やはりメキシコは杉浦君にぴったりの気がする。タスコのような観光地ではなく土臭いムンとする山肌の熱気。今度はチワワの岩山に出掛ける予定だが、そこは杉浦君の故郷のような気がする。手紙が届き次第、来れるなら来ると良いが、それも無理な気がする。次は、二人でメキシコへ来たいなあ。」

帰国後の氏は、寓話や神秘の世界をテーマに、メキシコの市場や祭りを大作で描き続けたが、逝去された今も、きつとメキシコの民衆の中で自由に描き続けているのではないだろうか。

杉浦 正美
合掌

報 計

会員
小鹿 尚久氏
逝去す

第92回展出品作
想 H77×20×16cm
小鹿 尚久



会員
小鹿 尚久
平成二十三年一月二十六日没
ご遺族 小鹿 教子 (妻)
〒三二〇一〇〇五三
茨城県水戸市末広町三六四一

小鹿 尚久氏略歴

一九二二年 茨城県に生まれる
一九五七年 特待賞受賞
一九六九年 会員推挙
一九八七年 ローマ賞受賞
一九九八年 評議員就任
二〇〇五年 文部科学大臣賞
受賞

盟友の死を悼む

小鹿尚久さんが、去る一月二十六日、静かに天寿を全うされた。数年前から病氣と闘い、友人の顔も識別出来ない程の視力で、数々の秀作をつくり、二科九十回展では、栄ある文部科学大臣賞を受賞した。その陰には、奥さんの想像を絶する献身と励ましの日々があった。彼の親しい友人、知人は忘れ得ぬ語り草になるう。

彼は第二次世界大戦終了後故郷水戸へ復員し、焼土の街に、戦争の悲惨さ、空しさを、つくづく感じた。その反面「自由」というとてつもない希望、輝きが心の中から湧いてきた。旧制水戸中時代に、上野の博物館で正倉院展を見て、震えるよう

な感動を覚えた。その記憶が心の隅に残っていた。當時有名だった後藤清一氏の弟子となり、彫刻の道へ進むことになった。木内克、小森邦夫氏等にも知遇を得て彫刻家としての第一歩を踏み始めた。

二科展に入選後は、茨城支部が服部正一郎先生を中心に結成され、彫刻の飯田艇三氏や私たち新人も加えられ、意気盛んに活動を始めた。支部展を県内各地で開催、彼や私等は、作品と共に貨物自動車の荷台に乗り、二科の幟をたて、芸術の担い手になったような...、意気軒昂振りだった。が志とは裏腹に、お互い年中貧乏だった。水戸での集会后は、彼の家で、どんなに騒ぎ、それでも彼と奥さんは、何時も笑顔で、楽しませてくれた。彼は仕事以外にも、社会的一般、歴史や文学にも通じ、所謂「〇〇馬鹿」ではなかった。私の手元には彼の作品が、いくつもある。晩年の木心乾漆作の「仔馬」が、静かに愛らしく私に語りかける。彼の心根がひしひしと私の胸に伝わってくる。

天国でまた会いましょう。ご冥福をお祈り致します。

田中良
合掌

報 計

会員
松井 敏郎氏
逝去す

第89回展出品作
茶の湯 F100
松井 敏郎



会員
松井 敏郎

平成二十三年五月十三日没

79歳

ご遺族 松井 淳子（妻）
〒二〇五―〇〇―一
東京都清瀬市下清戸
一―七―三二―一

松井 敏郎氏略歴

一九三一年 愛知県に生まれる
一九六三年 特選受賞
一九七三年 金賞受賞
一九七四年 パリ賞受賞
二〇〇二年 会員賞受賞
二〇〇四年 監事就任

松井 敏郎氏を悼む

五月十三日、松井夫人から「主人が肺炎で入院し、今年是不出品なる」と連絡があり、「無理をせずどうぞお大事に」と電話で伝え、心配していたが、後日、親族だけで葬儀は済した由、俄には信じ難く、未だ弔問も果せず、思いは宙に浮いている。

盟友の死は、本当に辛い。松井氏とは長い付き合いで、彫刻部の夫人と（夫婦で特選）と新聞に載った頃からの友人である。後に金賞やパリ賞を取り、夙に枝量の程は定評があった。私とは前後して会員になり、又、研究会の時や二科展出品の際には、面倒見が良く、後輩の尊敬と信頼が篤かった。

年齢が近い所為もあり、会の仕事はいつも一緒に、評議員になって、俄に忙しくなった。二科ニュースの編集に携わっても、彼の論旨は筋が通って、スタッフも和気藹々仕事が出来た。

東京支部立上げの時も、「表に立つのは不得手だ」と、いつも私を立て、くれた。会則や名簿作りの面倒も、どこにそんな才覚があったかと思う程だった。

新生二科を謳う実行委員として改革に寄与した貢献も大きかった。

単身パリで暮した事もあ

る。出品作品は数年毎にモチーフは変ったが、丹念な人物像で、晩年は京舞子の美しい着物姿が会場の人目を引いていた。

お互い酒が好きで良く上野の山下で飲んだが、時に酒量を超え、僚支に肩を預けて心配する夫人のもとに帰る背が、心なしか少し細くなった様に見えた。

飄々として皆に愛され、後輩に慕われていた松井さん。もう逢えないが、今頃グラスを片手に微笑しながら待つていてくれると思う。

敏ちゃん、長い間有難う。どうぞ安らかにお休下さい。

合掌
松室 重親

随想をお願いして、原稿を頂いたまま、二科ニュースに掲載する前に、まさかのご不幸が訪れてしまふとは思ひも及びませんでした。ご存命中にご覧いただきたかったと、今更ながら残念に思います。

体調を崩される前まで、二科ニュースのメンバーとして活躍され、知識の豊富さで何時も助けられた事が思い起こされます。謹んで、ここに掲載させて頂きました。

随想
テレビ依存症

松井 敏郎

私は三年半前、突然思わぬ病に見舞われ、驚いた日々を過ごし、少しずつ回復している状態である。今のところ、朝は七時起床「みのもんだ」と「花丸マーケット」と軽い朝食で終わる。

朝九時半〜十時にアトリエに入り、昼頃迄絵を描く事になっているのだが、これがまたなか／＼思うようにいかない。集中力に欠けるのか、体力のないためか一気に描き上げる事がむづかしく、ぐずぐ／＼してしまう。以前のよう

に三号四号の仕事なら殆ど一日で仕上げたものだが…。テレビを見る時間がどうしても長くなってしまい、妻

から「テレビ依存症」と言われ、いささかむづかしい感じが仕方がない。三時頃再びアトリエに入り、夕食まで仕事をする。

夜は殆んど仕事はしない。手紙、その他雑用を処理し十一時にはできるだけ床に入るようにしている。

私はテレビの時代劇が好きで、ビデオに撮っておいて床に入ってから見るようにしている。オフタイマーにして見ながら眠るのが何よりの楽しみ。今は「あばれん坊将軍」と「黄門様」これが「剣客商売」や「鬼平犯科帳」だったら最後まで見てしまいうかも知れない。

その他、料理番組、雑学番組、漢字のクイズ番組などもよく見るようになった。

以前は料理番組など見向きもしなかったのに、最近ではメモまでして、時折男料理の腕をふるったりもする。

これも病気による思わぬ収穫かも知れない。

これが最近の日課になってしまったが、テレビも少々あきて来たし、体力も以前よりいくらかついて来たように思われる。欲は言わない、午前中二時間、午後二時間をびっちりアトリエで集中できるとなりたいと思っている。

第九十六回二科巡回展日程

名古屋展

愛知県美術館

平成二十三年十月四日

〜十月十六日

大阪展

大阪市立美術館

平成二十三年十一月一日

〜十一月十三日

富山展

富山市民プラザ

平成二十三年十一月十六日

〜十一月二十三日

京都展

京都市立美術館

平成二十三年十一月二十六日

〜十二月四日

広島展

広島県立美術館

平成二十四年一月十日

〜一月十五日

鹿児島展

歴史資料センター黎明館

平成二十四年三月七日

〜三月十八日

福岡展

福岡市立美術館

平成二十四年四月二十四日

〜四月三十日

報 計

会友

齊藤 朝子氏
逝去す

会友 齊藤 朝子

平成二十年十二月三日没 78歳
ご遺族 齊藤 馨（長男）
〒四五三〇〇六四
愛知県名古屋市中村区草薙町
一五五

齊藤 朝子氏略歴

一九八五年 70回展初入選
一九九三年 78回展特選
二〇〇二年 87回展会友推挙

齊藤朝子さんを悼む

朝子さんは平成二十年二月大動脈解離の手術を受けリハビリの後、四月末退院されました。その後、家で療養されながら教室へ教えに行かれる程お元気になられたという事でしたが、十二月三日朝いつものように起きて来られないので、ご長男が様子を見に行かれると、眠っているかのように

亡くなられていたそうです。

スケッチの好きな朝子さんと写生旅行で一緒にした時、又、デッサン会の帰りには居酒屋でおしゃべりに花が咲いた事など懐かしく思い出されます。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

渡辺 倭文子

報 計

会友

都木 源之輔氏
逝去す

会友 都木 源之輔

平成二十三年一月二十九日没 86歳
ご遺族 小堀 恵以子（長女）
〒三七一一〇八四六
前橋市元総社町八一五

都木 源之輔氏略歴

昭和三十年 第40回展初入選
昭和六三年 第73回展特選
平成二年 第75回展会友推挙

都木源之輔先生を悼む

昨年の五月に、地元の画廊で個展を開き、大好評を博しました。二十三年ぶりの個展とのことでした。当日はいくらかお疲れの様子でしたが、大勢の教え子やファンなどに対して、何時に変わらぬ穏やかな態度で接しておられました。

先生のお作品をまとめて見るのは初めてで、改めてその力量に圧倒されました。単純化された独特の形態と澄んだ色彩が印象的でした。大作のタイトルは、そのほとんどが「HITO」でした。太くて黒い線と抑えた三原色を宝石のように鏤め、存在感のある女性像が浮かび上がる都木先生しか描けない世界がそこに在りました。何故会員推挙にならなかったのか、そんな思いがふと過ぎりました。

昭和二十五年に清水刀根先生に師事されて以来の画業とのこと、ざっと六十年の永きに及んでいます。

大柄で物静かな、責任感溢れる先生でした。校長を定年退職される年の三月三十一日の午前零時になるのを待って校門を去ったというエピソードは、生前、先生から直接伺った話です。

ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

合掌
井田 健一

報 計

会友

平井 行雅氏
逝去す

会友 平井 行雅

平成二十三年三月四日没 71歳
ご遺族 平井 弘子（妻）
〒七〇三三八二〇四
岡山県岡山市中区雄町
四七八一十二

平井 行雅氏略歴

二〇〇〇年 記念賞
二〇〇八年 会友推挙

平井行雅氏の御生前の想い

平井行雅さん、貴方のご病状を三月四日の午前十時頃奥様にお電話でお伺いしたら「主人は今朝五時に亡くなりました」の御返事にびっくりして悲しみは一入でありました。貴方と私は、

ベル・串田先生時代からのつき合いで、二人で度々出品者の制作中を見せてもらいに走り、また岡山よりアカデミーの絵画教室でも、共に初心者指導に当たりましたね。継続は力なり、と信じて学ばれた貴方は多忙なときも出品作の完成に集中されて、第85回展で、記念賞、第93回展で、会友推挙の作家として認められましたことは岡山支部にとつても、貴方の頑張りには大きな力を得ました。私は85回展の十二月入院して手術を受け、体力をなくして思案して居た時、時の広島支部長、新田稲實先生がお電話で両支部は懇親会を行い共にスケッチなどして楽しもうとのお電話に甘へ、岡山支部の世話役を平井さんに頼み、何かとお世話になりましたね。今は天国でお休みの、平井さん。お悦び下さい、貴方と親しくして居られた、高藤博行広島支部長と会友高松良幸氏が岡山支部員と共に御葬儀に御参列下さいました。私の失礼は心よりお詫び申し上げます。

合掌
長谷川 正義

報 計

会友

武良 恭子氏
逝去す

会友 武良 恭子

平成二十三年三月十五日没 85歳
ご遺族 武良 幸夫（夫）
〒一八二〇〇三三
調布市富士見町三二六八

武良 恭子氏略歴

一九八八年 特選
一九九四年 会友推挙
二〇〇〇年 会友賞

恭子さんの突然の訃報に大変おどろき、とても悲しく思います。

二科のニューヨーク巡廻展も、同室にさせていただきましたし、一九九九年二人でのパリのスケッチ旅行にも御一緒させて頂きました。パリではお互い、仏語は読みも話せも出来ませんでしたので「弥次喜多道中だね」と言いながら、精力的に描いて回りました。

おおらかに自由闊達、バイタリティーに溢れ、よく生き、面白い絵を描かれていました。色々お世話になりました。楽しい思い出をたくさん有難うございました。ご夫君との散歩の帰途、ベンチでお苦しみも無く逝かれたとお報せ。天国でこの世の苦から解放されたれ自在な魂で絵を描かれてらっしゃる事と思います。どうぞ天上より、二科の未来と発展をお見守りくださいませ。

ご冥福をお祈り致します。
武田 美智子

事務局だより

第三十三回定時会員総会も無事終了し、いよいよ第96回二科展に向けて展覧会準備も加速ができてきました。

今回の二科ニュースでの支部や巡回展のご報告にあるように、支部展や巡回展も地震の影響で残念ながら開催できない地域もありましたが、各地域の先生方のご努力により盛会裏に終了し、記事からも熱気が感じられました。公益法人申請も大詰めを迎えておりますが、支部や巡回展を定款や細則にも明

記し、本部、支部、巡回展が包括されたひとつの美術運動の総体としての公益法人二科会に移行する方向で進んでおります。今後、ガバナンスや税務申告の必要性から、各支部や巡回展責任者の先生方には、何かとご協力いただくことが多くなると思いますが、よろしくお願いいたします。

また展覧会運営や、法人として経理整備の観点からデータベース化は大変重要な課題で、埴、安田両事務局会員を中心に、デザイン部堀川会員にご協力いただきながら急ピッチで進めております。途中過程において、会員の皆様にはお手数をかけることもあるかと思いますが、データの集積が不可欠で、必ず長期的に機能してきますので、ご理解のほどお願い申し上げます。

大地震後は各地域の先生方から被災地の方々の安否を気遣うご連絡を事務局に寄せていただき、皆様のご無事に胸をなでおろすと共に、改めて二科会が一つの運命共同体であると感じました。非常事態において芸術団体として何ができるかを問われる時期ですが、会はいち早く義援活動委員会を立ち上げ、すでに被災地学校への寄付

活動や被災地の子供たちの描いた作品を特別展示する等の準備を進めていただいています。被災者の立場に立ち、本当に求められていることを見極め、迅速な対応をするとともに、一時のムードに終わらない継続的な支援活動が必要です。多くのご意見や支援企画を寄せていただきありがとうございます。

公益法人申請については総務担当理事、顧問弁護士、税理士の指導を頂き、第96回二科展に向けては理事会・実行委員会を基軸に広報担当、展示担当、作品集担当の委員の先生方が制作にお忙しい中を着々と準備を進めていただいております。百周年記念事業準備、義援活動、公益法人申請、展覧会準備が、それぞれ各担当制になっておりますが、密接に繋がり連携プレーで組織として理想的な形で遂行していただき、事務局一同大変感謝しております。

最後に長年勤めた塩見事務員が都合により五月末に退職し、現在、原田・飯澤事務員が非常勤スタッフとして勤務しております。

塩見さんに対するご厚情に御礼申し上げますとともに新スタッフのご指導をお願い申し上げます。
(山中)

東日本大震災 義援活動報告

鹿児島県、長野県、福島県その他、多くの地方から支援に対する提案が寄せられた。

二科会では、文部科学省発信の支援ポータルサイトで宮城県、教育画材として、水彩クレパス、筆二本と画用紙二千枚を寄贈した。又、南相馬市の小学校には、当地出身の中島会員の提案を校長会に諮り、その結果を待つて支援の内容を検討する事になっている。

来る96回二科展には、会場での色紙即売チャリティと共に、被災地の児童作品展示し、皆さんの心を癒やす計画も立っている。又、他に良い案があれば実行に移したい。



寄贈画材

第96回二科展

日程(予定)

八月	
十八日(木)	搬入(絵・彫)
十九日(金)	搬入(絵・彫)
二十日(土)	午前中搬入(絵・彫)
二十一日(日)	審査(彫)
二十二日(月)	審査(絵・彫)
二十三日(火)	審査(絵)
二十四日(水)	審査(絵)
二十五日(木)	審査(絵)
二十六日(金)	作品整理(絵)
二十七日(土)	作品移動(絵)
二十八日(日)	選外搬出(絵・彫)
二十九日(月)	選外搬出(絵)
三十日(火)	展示作業
三十一日(水)	開会
	テープカット
	ギャラリートーク
	(絵)
	作品講評会(絵)
	授賞式
	懇親会

編集後記

春季展が無い春号は、九地区の巡回展を取り上げ、特集としました。新国立美術館での96回二科展に向けての活動が力強く、もう始まっている熱意が伝わる巡回展が紹介出来ました。震災、原発事故に見舞われた中、二科会としての援助活動が行われています。今までNHK厚生事業団に寄付をしていた色紙等の売上金を救済金に充てて行く事と成り、会員の先生方には、より多くの色紙等をお願い致します。



カット 会員 東井 邦夫

編集委員

委員長(彫)	島田 紘一 呂
委員(絵)	倉橋 寛
〃	戸狩 公久
〃	浅賀 昌子
〃	岩田 博
〃	安田 明長
写真記録(絵)	本間 千恵子
〃	(彫) 阿部 昌義

平成二十三年六月二十三日発行

社団法人二科会

東京都新宿区新宿四三二五
レイフラット新宿 五〇一五号室
電話 〇三三三三五四六六六六
千一六〇〇三二